

和親に溢るる 日夜の平安(やすらぎ)

正しき伝統(つたい)を 我らは喜こぶ

藩祖を讃へよ おおわが仙台

2 絵巻を展げる 緑の都よ

木の間には波うつ 家並の起伏

自然の恵みに いそしむ心に

気高き理想の 文化は芽生へん

聖なる学都よ おおわが仙台

3 明るき市政に 明るき人々

時代の律動(リズム)に 血潮を合せて

先駆の誇りに 栄えよ商工

若やぎ華やげ 賑はへ町々

希望は東へ おおわが仙台

この時の賞金は、1等3百円、2等百円、3等50円だった。なお1等の作詞は堀内敬三の作曲をつけて、昭和6年10月9日河北新報社から仙台市に贈呈され、終戦時まで広く市民の間で歌われたことについては前述してある。

資料 石川善助童謡集

詩人石川善助資料(木村健司編)

73 相沢三郎・村中孝次の墓はどこにあるか

問 相沢事件の相沢中佐と、二・二六事件の村中孝次の墓が仙台にあるとのことですが、それぞれどこにあるのですか。

答 相沢三郎の墓は仙台市新坂通充国寺に、村中孝次の墓は仙台市土樋松源寺にあります。

注(1) 昭和10年8月12日、陸軍歩兵中佐相沢三郎が陸軍省軍務局長永田鉄山少将を、同局長室で殺害した事件。この頃天皇機関説問題が起り、陸軍部内でも皇道・統制両派の対立がけわしくなってきた。相沢は皇道派の西田税・村中孝次らの影響下に、統制派の永田鉄山を目して重臣・政党・財閥・官僚と結んで皇軍を私兵化する中心人物であると、殺害を決定したものである。その軍事裁判が翌年1月開廷されたが、程なく二・二六事件が突発し

た。相沢はこの年7月3日死刑に処せられた。「仙台市史」第7巻P328に『昭和8. 10.7銃殺に処せらる』とあるのは誤りである。相沢は伊達家の旧家臣相沢兵之助の長男として、明治22年9月9日父の任地白河で生れた。仙台地方陸軍幼年学校出身。本籍仙台市東六番丁、当時の住所広島県福山市御門町157。享年47。昭和21年1月3日大赦令により大赦。

- 注(2) 昭和11年2月26日、東京市内で起った陸軍部隊の反乱事件。陸軍部内の皇道派・統制派の激しい対立の中で、この年の初め、皇道派青年将校の多かった第一師団の満洲派遣が発表されると、村中孝次らの急進派は、渡満前に決起することをきめ、秘密裡に準備を進め、20余名の将校を中心に、2月26日早朝クーデターを起した。彼等はそれぞれ所属部隊の下士官兵千四百名を出動させ、数隊に分れて首相官邸その他を襲い、重臣・高官を殺害した。しかし、彼らが目ざした反乱による革新政権の樹立も成らず、国民の支持もなかったため、事件発生後4日目の29日朝帰順した。村中孝次は、元陸軍大尉、決起趣意書の起草者で、首謀者の一人として軍法会議の裁きを受け、翌年8月19日死刑を執行された。本籍札幌市十七条西五丁目、当時の住所中野区鷺宮4の1021。仙台地方陸軍幼年学校出身。明治36年10月3日生。享年35。昭和21年1月3日大赦令により大赦。この事件後、軍部の政治的発言力は一層強大となり、軍国化への危険を増大させて行った。〔相沢事件及び二・二六事件に関する最も詳細な資料に「二・二六事件秘録」(林茂・伊藤隆・松沢哲成・竹山護夫・山口利昭・有山輝雄共編)全4巻がある]

- 注(3) 浄土宗。宝嶺山源樹院と号する。慶長9年〔1604〕3月24日開山と伝えられる。寺の本堂の右手に樹令350年の名木「やしおかえで」がある。

- 注(4) 曹洞宗。大蔵山と号する。永正18年〔1521〕開山、白河にあったが、慶長6年以後仙台の現在地に移ってきた、その年月日不詳。伊達家の外護は受けなかった。

資料 仙台市史第7巻

二・二六事件秘録(林茂〔等〕編)

74 「てんよ」は仙台の方言か

問 「てんよ」とは「ところてん」のことをいう方言ですか。

答 「全国方言辞典」(東条操編)に『<てんよ> 心太。ところてん。仙台』とある通り、ところてんを仙台地方ではてんよといいます。この語の語源を探求したものに「仙台方言考」(真山青果)